

独立行政法人日本学生支援機構
令和4年度（2022年度） 全国キャリア教育・就職ガイダンス

大学等における障害のある学生の キャリア支援に関する現状と課題



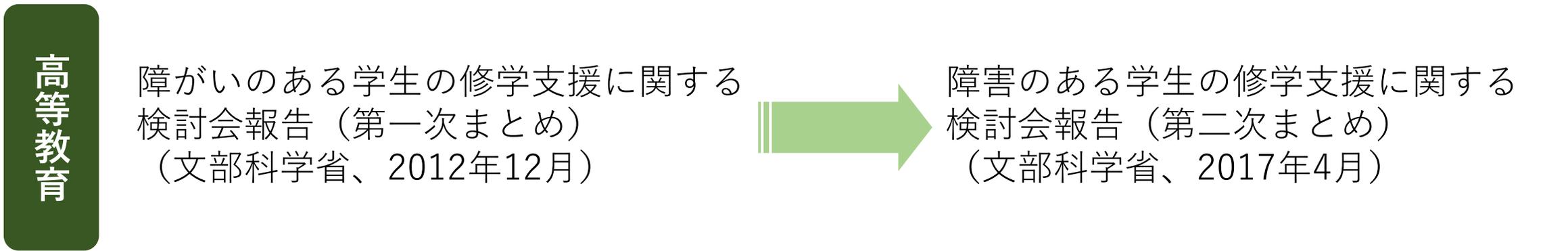
面高 有作

本日のながれ

- 障害のある学生（障害学生）の現状と課題
- キャリア支援及び教育の現状と課題
 - ✓ キャリア支援及び教育の規模別と地域別の分析
 - ✓ 大学等のヒアリング結果の分析
- 大学での取り組みの実際（連携事例、職場での対応事例）

障害のある学生の現状と課題

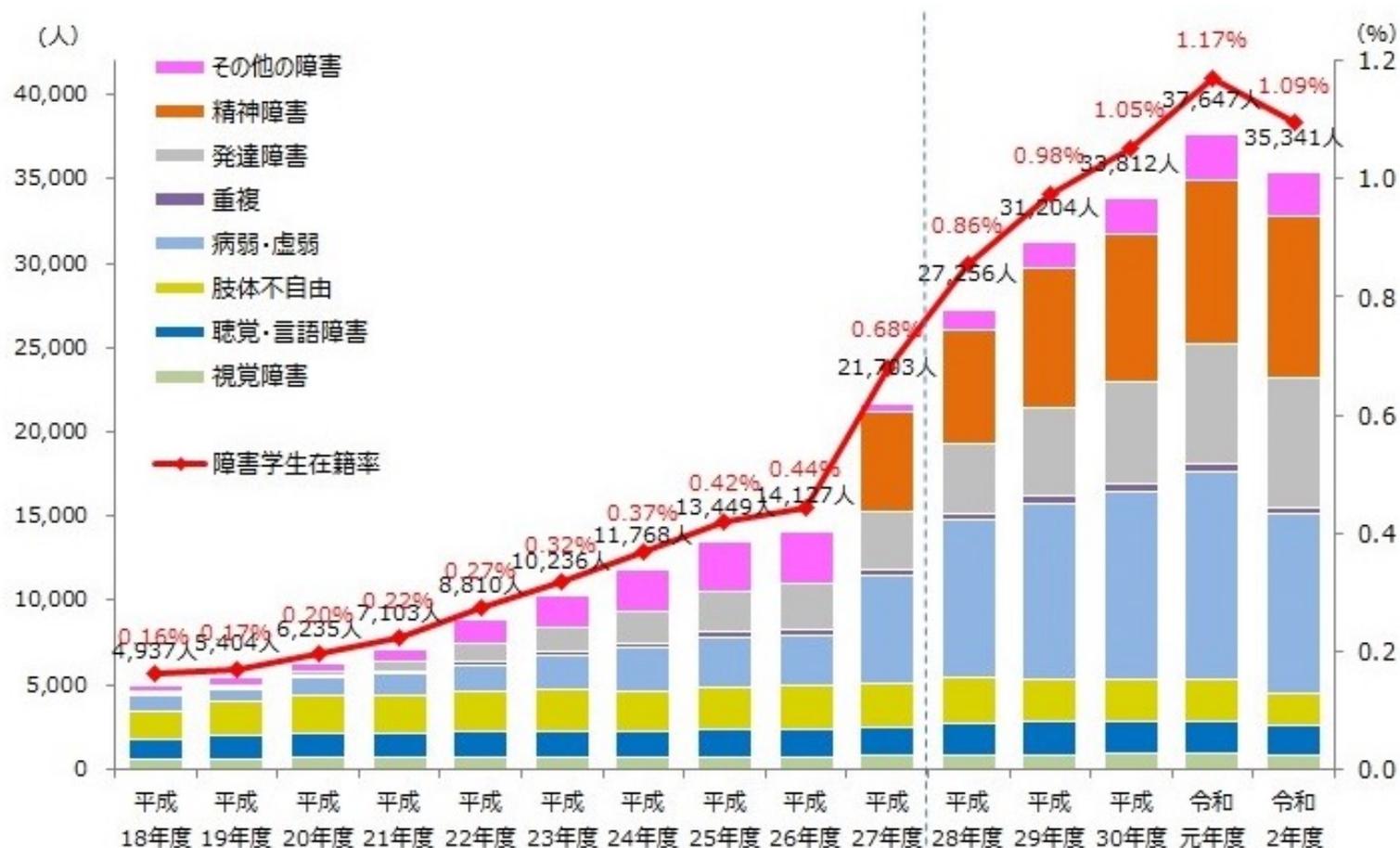
はじめに



社会移行支援 (就労支援、キャリア選択支援など) は、障害学生支援における残された主要な課題のひとつ

共生社会の構築

JASSO 令和2年度（2020年度）大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査



- 障害学生在籍学校数
935校（前年度937校）全学校数
1,174校の79.7%（前年度79.8%）

- 障害学生数
35,341人（前年度37,647人）
全学生数の1.09%
支援率53.1%（前年度49.7%）

- 最高年次の在籍と就職
2020年5月在籍：7,357人
2020年度の卒業生：5,454人
就職者：3,247人

進学率と就職率

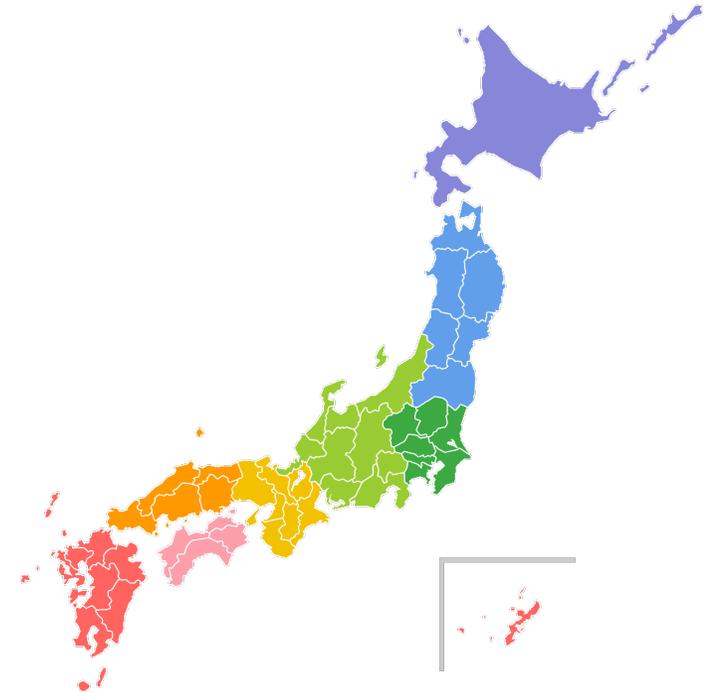
- 学生全体（文部科学省，2019）
進学率：11.4% 就職率：78.0%
- 障害のある学生（独立行政法人日本学生支援機構，2021）
進学率：8.9%（前年度12.1%） 就職率：58.7%（前年度56.1%）

学生全体と障害学生のみので進学率はほぼ変わらないが、就職率は明らかに障害学生が低い

高等教育の中で大学（学部）に限定した結果ではあるが、障害者の社会移行において機会の均等が図られていない可能性を示唆する結果

地域毎の違い

- 地域毎の社会資源の分布や行政の判断に違い
例えば、
 - 都道府県別障害者千人あたりのA型事業所数に**17倍の差** (0.05~0.84) (濱田, 2016)
 - 特例子会社 (全国に486社)
関東が52.7% (256社)、近畿が18.3% (89社)
(厚生労働省, 2018)



障害者の就労機会の地域差

→複数地域での調査が必須

地域の実情に応じた、工夫やノウハウの整理

キャリア支援及び教育 の現状と課題

- ✓キャリア支援及び教育の規模別と地域別の分析
- ✓大学等のヒアリング結果の分析

JASSOリサーチ2020-2021

- 大学の種別や規模別の障害学生の社会移行支援体制の構築状況
- 地域の特性に応じた社会移行支援のあり方について模索

→大学の種別や規模及び地域別の観点から資料を整理することは意義がある

研究の目的

- 1) 障害学生のキャリア構築に向けた支援体制整備状況を明らかにする。
- 2) 社会移行に向けた支援体制整備における課題を明らかにする。
- 3) 先駆的な取り組みの情報を共有する。

①高等教育機関における社会移行支援の実態調査

- 日本学生支援機構がおこなった既存の調査結果
 - 「障害のある学生の修学支援に関する実態調査」内の「3.活動や取組」にある「障害学生に対する就職支援やキャリア教育支援」、「学外機関との連携等」の回答
- 障害学生のキャリア教育や就職支援情報の提供、インターンシップ先の開拓といった、様々な取り組みが大学別、規模別、地域別に違いがあるかを明らかにする。

②高等教育機関におけるグッドプラクティス (先駆的取り組み) の調査

- 高等教育機関 4 校を対象にヒアリング
 - ▶ 大規模大学 1 校、中規模大学 2 校、小規模（単科）大学 1 校
- 方法：インタビューシートを用いた半構造化面接
 - ▶ ヒアリング内容は大学規模や取り組みの特徴毎に整理
- 地域：近畿地区
- 時期：2021年11月から12月

国立、公立及び私立の大学における 社会移行支援の実態（就職支援とキャリア教育）

- 国立、公立及び私立の構成比の違いを検討するためにカイ二乗検定をおこなった。さらに、残差分析をおこなった。* 有意水準は5%とした。

	実施		未実施		合計	
	学校数 (校)	比率 (%)	学校数 (校)	比率 (%)	学校数 (校)	比率 (%)
国立	72*	83.7	14*	16.3	86	100
公立	55*	59.1	38*	40.9	93	100
私立	427	69.7	186	30.3	613	100
合計 (校)	554	69.9	238	30.1	792	100

- 就職支援とキャリア教育実施状況
 - 学外機関との連携状況
- 国立大学において実施割合が高く、公立大学での実施割合が低い

国立、公立及び私立の大学における社会移行支援の実態

- 一般就職ガイダンス等における配慮実施状況
 - 国立、公立及び私立の間に割合の違いは見られなかった
 - 実施割合が低く（22.6%~30.3%）
 - 一般就職ガイダンス等における配慮が十分に行われていない**
- 障害学生向け就職ガイダンス、セミナー等の実施状況
 - 私立において実施割合が高く、公立での実施割合が少ない
 - 実施割合が低く（1.1%~18.6%）
 - 大学において障害学生向けの就職ガイダンス等自体の実施が少ない**
- インターンシップ先と就職先の開拓活動及び企業との連携状況
 - 公立において実施割合が低い（19.4%）、国立41.9%

大学規模別にみた社会移行支援の実態

大学の規模については、文部科学省がおこなっている学術情報基盤実態調査の「規模別大学一覧表（令和元年5月1日現在）」を参考に、A（8学部以上）を「大規模」、B（5～7学部）とC（2～4学部）を「中規模」、D（単科大学）を「小規模」と分類して分析した。

- 就職支援とキャリア教育実施状況

→大規模及び中規模の大学において実施割合が高く、小規模大学での実施割合が低い

→大規模大学：98.5%、小規模大学：49.7%

- 学外機関との連携状況

→大規模及び中規模の大学において実施割合が高く、小規模大学での実施割合が低い

→大規模大学：90%近い実施率、小規模大学：40%未滿

大学規模別にみた社会移行支援の実態

- 一般就職ガイダンス等における配慮実施状況
 - 大規模及び中規模の大学において実施割合が高く、小規模大学での実施割合が低い
 - 大規模大学：50.8%（実施率）、中規模大学：34.0%、**小規模大学：17.3%**
- 障害学生向け就職ガイダンス、セミナー等の実施状況
 - 大規模の大学において実施割合が高く、小規模大学での実施割合が低い
 - 大規模大学：53.8%の実施率、**小規模大学：3% 未満**
- インターンシップ先と就職先の開拓活動及び企業との連携状況
 - 大規模及び中規模の大学で実施割合が高く、小規模の大学で実施割合が低い

専任スタッフ配置の難しさ、それぞれの大学のみでの支援の限界

地域別にみた社会移行支援の実態

地域については、関東と近畿、その他（北海道・東北・中部・中国・四国・九州）の3つに分類して分析した。

- 就職支援とキャリア教育実施状況
- 学外機関との連携状況
- インターンシップ先と就職先の開拓活動及び企業との連携状況

→地域ごとの差は認められなかった

地域別にみた社会移行支援の実態

- 一般就職ガイダンス等における配慮実施状況
 - 近畿の実施割合が高く、その他が低い
 - 近畿：37.2%、関東：31.3%、その他：24.6%
- 障害学生向け就職ガイダンス、セミナー等の実施状況
 - 近畿の実施割合が高く、その他が低い
 - 近畿：20.5%、関東：16.0%、その他：10.4%

社会資源の有無だけでは説明がつかない結果
地域における**支援者間ネットワーク**の存在

高等教育機関におけるグッドプラクティス

- 大規模A校（学生数：25,000名ほど、障害学生数：180名ほど）
- キャリアセンターでの学生進路把握率が優れている
 - ✓一学年6,000名ほどの学生のうち、把握できない学生は30名程度
- 障害の有無を問わず学生の進路に関する情報をキャリアセンターに集約
 - ✓キャリアセンターが提供する就職活動のコンテンツの中に、障害学生を対象としたe-learningコンテンツを位置付ける

ユニバーサルデザイン化されたキャリア支援・キャリア教育

高等教育機関におけるグッドプラクティス

- 中規模B校（学生数：9,000名ほど、障害学生数：不明）
- キャリア教育への参画
 - ✓授業の1コマを担当
- 職員の積極的な研修参加
 - ✓研修を通じてスタッフは最新の採用選考の動向や、発達障害に関する知識等について情報収集
- 地域との連携

キャリア支援を教育の中に位置付ける
スタッフの育成（情報収集、ネットワーキング）

高等教育機関におけるグッドプラクティス

- 小規模（単科）D校（学生数：1,700名ほど、障害学生数：不明、診断はないが150名ほどを支援している）
- 学内支援者（心理カウンセラー）との毎月の情報共有
- 地域の企業や就労移行支援事業所との連携
 - ✓ 就労移行支援事業所でのインターンシップ

キャリアセンターでのきめ細やかなサポート
地域における社会資源等との連携

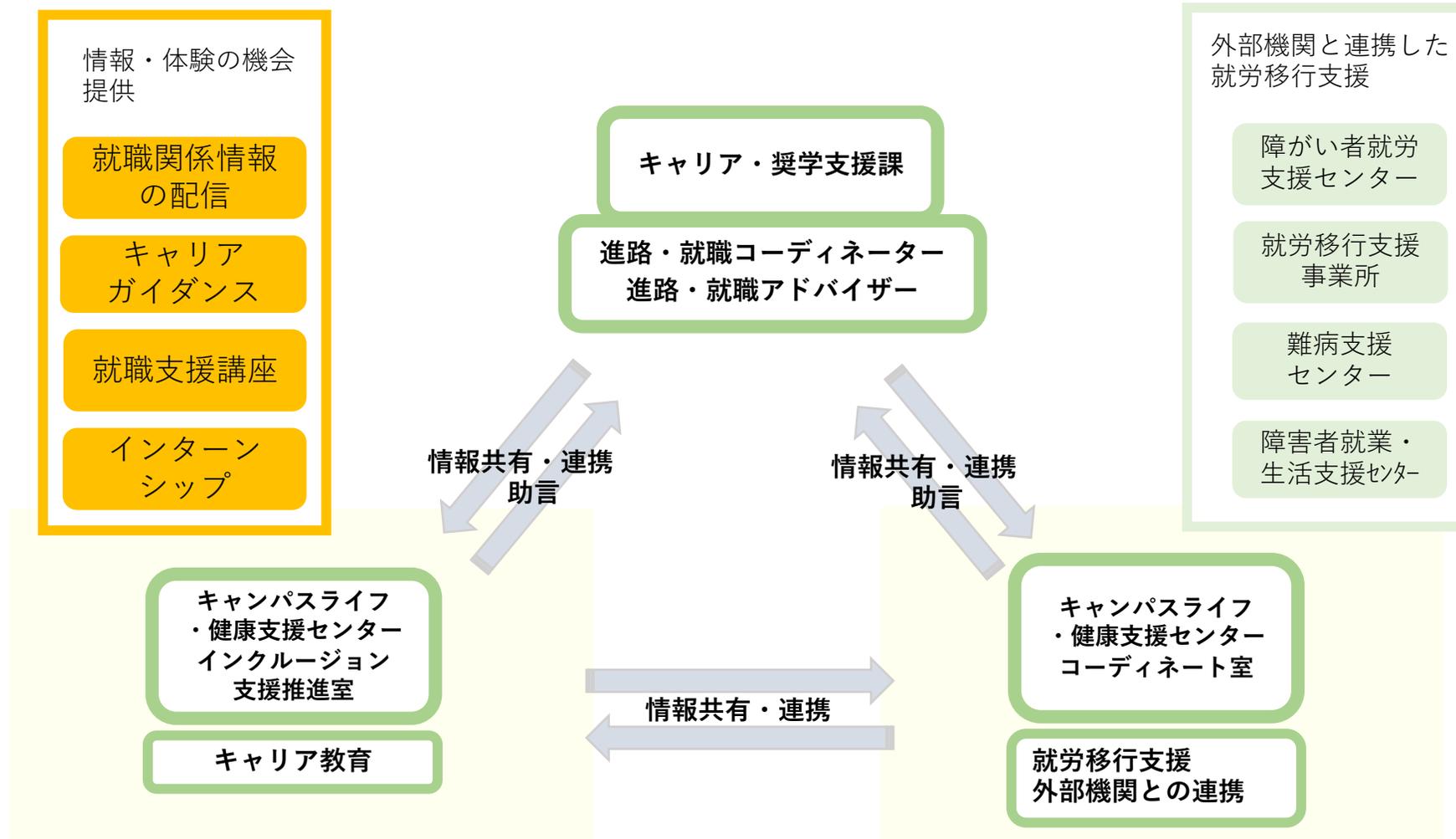
小まとめ

- 地域及び大学のグッドプラクティス
 - ユニバーサルデザイン化
 - 地域での連携枠組みの形成
 - 教育と一体になった取り組みの推進
 - 支援スタッフへの積極的な研修
- 社会移行に向けた支援体制整備における課題

- ① 各地域における連携の枠組みづくりの促進
- ② 精神障害のある学生への対応
- ③ 保護者への対応に関する研修、
- ④ インターンシップ実施状況や卒業後の定着状況の把握
- ⑤ 学内外における情報共有のガイドラインの整備

大学での取り組みの実際

障害のある学生に対するキャリア・就職支援体制



*九州大学キャリア・奨学支援課のスライドをもとに発表者が一部改変

「私なんか働ける場所なんてあるんでしょうか？」

* 複数の事例をもとにした合成事例

- 20代 自閉スペクトラム症 気分障害
- 精神保健福祉手帳2級 Bさん
- 同時に複数のことに取り組めない
- 障害を開示しての就職に迷い

窓口の固定化

関係者の役割分担

プライドを
大切に

「何をしたら良いのかわかりません」

キャリア支援担当者 2021年12月24日 18:11

TO 面高有作さん TO 学生さん

○今後の作業フロー

1. 1/12 11:10- オンライン面接
2. 紹介状を 企業名 に送る
 - ①主治医に「医師の意見書」を書いてもらう
 - 【訪問先】主治医
 - 【持ち物】今日の面談でお渡しした「医師の意見書」
 - ②「紹介状」をもらう。
 - 【訪問先】「ハローワーク福岡西」の専門援助部門
 - 【持ち物】「求人番号（求人番号：40010-
[redacted]）」、「記入済みの医師の意見書」「障害者手帳」（念のため）

精神
、口
症状

学生 2021年12月24日 18:25

確認しました。
よろしくお願いいたします

👍 1 🗨️

2022年1月12日

キャリア支援担当者 1月12日 7:47

TO 学生さん

おはようございます😊
面接、今日ですね。よろしくお願いいたします😊

具体的な指示

情報の視覚化

構造化

まとめ

- 共通課題
 - ✓役割について共通理解を図る（役割期待と役割意識のずれ）
- 教育機関
 - ✓キャリア支援やキャリア教育の機会を保障する
 - ✓定着状況にまで視野を広げる
- 就労支援機関
 - ✓アセスメントの整備をリードする
- 雇用主、企業等
 - ✓多様な働き方を教育機関と開発する
 - ✓新卒の採用をこれまで以上に強化する